

◇第2連区青年布教使研修会開催

去る二月五日、六日、高岡教区布教団の担当により「高校生の声から『人々の苦悩に応える法話』を考える」のテーマのもと第2連区青年布教使研修会が開催され、連区内6教区から四十五才未満の青年布教使ら三十名が参加、活発な意見交換を行った。これは、三年前より高岡龍谷高校で行ってきた「青年布教使大会」での経験と課題を、他の青年布教使と共有するなかから自己研鑽につなげようとの目的で開催されたもの。

今回は、実際に
出講した伏間彰
彦さん（射水組妙
万寺）が、その感
想と高校生から
寄せられたアン
ケートの内容を
自己分析の形で
発表、その問題提
起をもとに話し
合いを行った。話
し合いでは、「ア
ンケートでは『分
かりやすかった』



という意見が多いが『分からない』という声こそ大事にしなくてはならないのでは」「高校生は法話に對して無関心なのではなく、きちんと話を聞いて理解しようとする努力をしている。高校生への法話はその内容と質が厳しく問われる」「仏さまの慈悲を『親心』を例えとして話しているが、高校生の『親子関係』の現実に対して無意識であることは問題」などの声が聞かれた。

話し合いを受けた講義では、講師の脇谷暁融さん（連研中央講師・北海道教区）より「自分の得た知識のなかで『正解の答』を言ってしまうがちな僧侶。そうではなくて、一人一人の苦悩に感じ反応（感応）していくこと、相手に対しての想像力が大事」「高校生が抱えるいじめ、ひきこもり、不登校、格差、虐待に潜む構造的な差別を見抜くこと、同朋運動の視点が求められる」との助言がなされた。高岡教区布教団では、今回の成果を次年度の諸活動に繋げたいとしている。

☆北海道胆振東部地震義援金送金のご報告

昨年末、北海道教務所宛、北海道胆振東部地震義援金、八十五万四千四百十八円を送金し、同封のお礼状が届いておりますことご報告申し上げます。ご協力ありがとうございました。

◆まことの保育研修会が開催される

一月二十六日(土)午後から教区保育連盟(中西智浩理事長)の加盟園に所属する保育士及び教諭八十一名がまことの保育研修会に参加した。この研修会は法話等の仏教に関するお話を聞く機会が欲しいという仏教保育園や幼稚園の先生方の声を受けて開催され、法話中心の研修会が年二回行われている。今年度二回目の研修会は、教区内僧侶が結成した四人組音楽バンド“BON3”による演奏と法話が行われた。

始めに各園が持ち回りで行っている仏参は、マヤ保育園(富樫行慶園長)の先生方が献灯・献華・献香やお勤めを行った。(写真)

その後研修会に入り、仏教讃歌やビートルズの楽曲等一度は聞いたことがある音楽を聞きながら、合間に杉谷淳志さん(川上組瑞泉寺住職)がお話しされる法話に参加者一同は深く聞き入っていた。その中でも、ヘブライ人(ユダヤ人)の伝説にある、神の館にある魂の住む部屋、ガフの部屋(ガフのへや)の話やビートルズの曲で有名な「Let it be」制作にまつわる作者の母、マザーメアリーの言葉「あなたはあなたのままでもいい」等、浄土真宗の方々の言葉ではないが真宗的な言葉を紹介された。また、阿弥陀様のお話では、

気づきの光をくださる仏さまは生き方を強要しないと述べられた。次年度も年二回の研修会を開催し、法話を中心とした研修を行



う予定である。

★高岡教区仏教婦人会新年会開催

去る一月二十九日(火)、ニューオータニ高岡において高岡教区仏教婦人会連盟新年会が開催され、来賓を含め八十八名の参加者が交流を深めた。

はじめに全員で讃仏偈をお勤めした後、西岡孝了教務所長の法話があり、親鸞聖人が亡くなられた際に娘の覚信尼が往生の成否をめぐって母の恵信尼と手紙のやりとりをしたエピソードを紹介され、『本当に父は往生できたのだろうか』と不審がる娘に対し、恵信尼さまは『間違ひなく往生されています』と即答されました。「当時は臨終の際に阿弥陀如来が迎えに来るといふ『臨終来迎』という考え方が常識だったからこそ、覚信尼さんは普通の亡くなり方をした親鸞聖人の往生に疑問を抱いたわけですが、『臨終の良し悪しなどは関係ない』という親鸞聖人の教えを恵信尼さまは深く理解していたからこそのお答えだったかと思えます」「恵信尼さまはただ親鸞聖人に付き従う人ではなく、優れたパートナーでありました」と、親鸞聖人の偉大な業績も恵信尼の存在なしには成しえなかったのではないかとし、家庭における女性の力はそれくらい重要であり現代の家庭においてもそれは変わらないと会員を激励した。

続いて催された宴席では余興のトインクルスターズの皆さんによるハーモニカ演奏が会場を大いに盛り上げ、ビンゴゲームで読み上げられる数字に参加者は一喜一憂しながら交流を楽しんだ。



◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

第二回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会報告

一月二十五日、本願寺伝道本部において、二〇一八年度第二回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会が開催されました。

中央委員会は、宗務機関、宗門関係団体、教区・特区委員会を代表する五十人以内の委員で組織され、実践運動の総合計画及び年度ごとの重点プロジェクト推進計画を含む実践運動全体の成果を点検・総括し、また、「意見具申」及び一般社会の諸課題について協議することが主な所掌事項とされています。

今回の報告事項は、①「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)・重点プロジェクトの推進状況について、②「宗門総合振興計画事業内容⑧」にかかる取り組みについて、③今後の中央委員会の運営について、協議事項は、①「意見具申」について、②次期「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクトについてでした。

報告・協議の中心は、宗門総合振興計画事業内容⑧「10年、20年後の日本社会で求められる僧侶像・寺院像を専門家の知見も得ながら見定め、現場で信頼される僧侶・教師・住職・布教使・特別法務員及び坊守の育成体系の創出と徹底を図る」に関わるものでした。僧侶養成部からの僧侶育成体系プロジェクト委員会設置(二〇一五年七月)以降の取り組み経過(時系列)報告のなかで、『10年、20年後の日本社会で求められる僧侶、教師、住職、布教使、特別法務員及び坊守の育成体系創出にかかる具体策』の推進に関する第一次答申』に基づく取り組みの方向性について、「僧侶」養成(得度習礼等)は二〇二〇年度、「教師」養成(教師教修等)、「布教使」養成(布教使課程等)は二〇二一年度よりそれぞれ新養成システムのもと実施することが新たに示されました。報告の後、時間をかけて協議が行われました。

高岡教区が今回提出した『意見具申』(別紙添付)は、まさにこの養成システムのあり方に対するものであり、『意見具申』の内容について補足説明した後、

再度口頭にて質問と意見を申し述べました。「新養成システムの導入は決定事項なのか?」「公開性と公共性を伴う全宗門的な協議が不十分ではないのか?」「僧侶・布教使への管理と統制の強化とも取れる改定は、『宗派当局の許認可権の拡大』につながるのではないか?」等の質問に対しては、僧侶養成部長より『宗報』での情報公開や公聴会での意見聴取など手続きは踏んでいる」「得度審査会、教師資格審査会、布教使資格審査会を設置し、判定基準に基づき可否(可否)を判断するので、総局の許認可権の拡大にはならない」との回答がなされました。委員から「審査会のメンバーは誰なのか?」との質問がなされましたが、僧侶養成部長からは「まだ誰かは言えないが、メンバーの構成は慎重に行う」との返答のみで、具体的な回答はありませんでした。

今回、福岡教区からも二つの『意見具申』が提出されました。「新天皇の即位・大嘗祭に対して、政教分離原則を構築する立場から、宗門としての反対声明を求める」意見具申に対しては、総合研究所長より「宗門内の議論を喚起することは必要であるが、宗門全体として反対声明を出す必要はない」との見解が述べられました。それに対し、委員からは「法的に問題があるかどうかではなく、教えに生きることの根幹にかかわる問題である」「宗門として意思表示することが何故そんなに難しいのが理解できない」などの指摘がなされました。また、「宗門をあげて性的少数者(LGBTQ)への差別問題に取り組みことを求める」意見具申に対しては、社会部人権問題担当より「人権啓発推進僧侶研修会の研修課題にも挙げられており、宗門全体として学びを深めていく」との説明がありました。

中央委員会に出席して毎回感じるのは、教団の運動のあり方を点検・総括する場になっていないということです。これは中央委員会のみならず、現在の教団の運動体制が抱える最も深刻な課題といえます。寺院・組・教区の現場からの声が直接反映されない教団運営のあり方が、「結論ありき」「お手盛り」との印象を与えているのでしょうか。まずは中央委員会の運営の正常化を実現しなければならぬと感じています。

【高岡教区委員会副委員長・中央委員会委員 林 史樹】

◇これからの日程（2/16～3/15）◇

2月	教区・財団行事	教化団体・組行事
16	臨時教区会	門徒推進員研修協議会
18		管区支部打合せ～19 (石川)
19		連区職員研修～20(石川) 仏青中央研修～20(本山)
21		
24		仏壮ボウリング大会
25		仏婦執行部会
26		連研のための研修会
27	寺女第3回研修会 長寿苑ビハーラ活動	
3月		
1		ビハーラ高岡役員会
4		第1B総代研修会(会館)
5		第3B総代研修会(クロス ランドホテル)
6		第4B総代研修会(ひみの はな)
7		富山龍谷教学会議研修会 役員会
8		第2B総代研修会(大門総 合会館)
11	常備会	
12	組主幹協議会	
13	財団理事会・評議員会	
14	常例法座	
15		仏婦常任委員会

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送(KNB)・738kHz.

◎毎週土曜日(本山制作)午前6:15～6:25
□第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00～6:10

◎2/23(土):那須 英信氏

(本願寺派布教使・広島県善正寺住職)

「はからいからおまかせへ」

□2/24(日):寺西 良夫氏

(高岡教区)

◎3/2(土):那須 英信氏

(本願寺派布教使・広島県善正寺住職)

「未定」

◎3/9(土):増田 廣樹氏

(本願寺派布教使・茨城県清心寺衆徒)

「意味と価値」

◎3/10(日):未定

(富山教区)

◎3/16(土):増田 廣樹氏

(本願寺派布教使・茨城県清心寺衆徒)

「未定」

◎3/23(土):増田 廣樹氏

(本願寺派布教使・茨城県清心寺衆徒)

「未定」

☆ご報告☆

会館ロビーに排煙装置が設置されました

1月22日、会館ロビーにタバコ排煙装置が設置されました。ご芳志をお寄せいただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

「財団」理事長 西岡孝雄

【西本願寺高岡会館3月の常例法座】

ご講師:梅本 洪道氏

(高岡教区氷見西組教西寺)

ご講題:「未定」

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。